

ごあいさつ

実行委員長：石田英敬

(東京大学教授・
附属図書館 副館長／新図書館計画推進室長)

日本記号学会第34回大会は、2014年5月24日(土)、5月25日(日)の2日間、東京大学駒場キャンパスで開催いたします。今回は「ハイブリッド・リーディング Hybrid Reading」と題して、現代のデジタル・テクノロジーの認知的射程と文字と書物の文化圏をテーマに、「読む」という行為の多層性、認知的可能性、多メディア性、共有可能性を考えていきます。

電子メディアの興隆が読書文化の根幹にまで及んでいることは Kindle や iPad のような読書端末、E-Pub や PDF での電子出版の普及を見れば明らかです。しかし、他方では、ウンベルト・エーコが述べるように、知の道具としての紙の本の知識文化における中心性が消滅するとは考えられないとも言われます(「書物は、車輪やハンマーのように、乗り越え不可能な発明」 Umberto Eco)。さらに、最近の脳神経科学研究は、読字する脳の「文字中枢 (brain's letter box)」が、空間認知のニューロン回路のリサイクルにより獲得される仕組みを解明しつつあります (Stanislas Dehaene *Reading in the brain*, 2009)。紙と電子の間で〈読むこと〉のセミオーシスが大きく変容していくハイブリッド・リーディングの時代に、記号論はいまどのような新たなパラダイムを提示しうるのでしょうか。

ご参加のみなさんの活発な議論の場になることを祈念しています。

お申込方法

全ての企画に、どなたでもご参加いただけます。
(事前申し込み不要)

参加費

会員・一般の方：1000円(資料代)

学生の方：無料

懇親会

1日目(土曜)のプログラム終了後、懇親会を行います。
皆様ふるってご参加ください。

会場：駒場キャンパス内 21KOMCEE MM ホール

日時：5月24日(土) 18:30 -

参加費：5000円(当日お申込みいただけます)

お問合せ

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院情報学環9階901

メディア・コンテンツ総合研究機構 内

第34回日本記号学会大会事務局

TEL：03-5841-7907

hybrid.jass2014@gmail.com

主催：日本記号学会

共催：東京大学大学院情報学環 メディア・コンテンツ研究機構



京王井の頭線「駒場東大前」駅下車

日本記号学会 第34回大会

ハイブリッド・リーディング Hybrid Reading

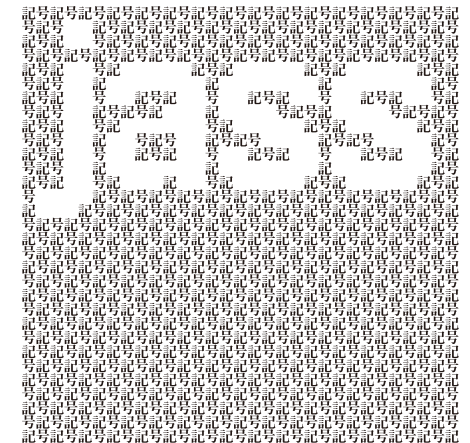
紙と電子の融合がもたらす

グラマトロジー
〈新しい文字学〉の地平

2014年5月24日(土)- 25日(日)

会場 東京大学駒場キャンパス

18号館レクチャーホール



5月24日(土)

(会場：東京大学駒場キャンパス 18号館レクチャーホール)

13:00 受付開始

13:30 総会

14:30-14:50 開会の辞(石田英敬、キム・ソンド)

14:50-15:50 プレナリー・セッション Hybrid Reading I

「一即二即多即一」(講演：杉浦康平)

紙と電子の融合で読書行為が再定義されつつある時代の中で、いま問われるべき「アジアのブックデザイン」とは？ 一冊の本が多様な宇宙を包み込む可能性を追求しつづけてきたデザイナーの杉浦康平氏をゲストに迎え、書物の重層性と生成原理について考えます。

16:00-18:00 ラウンドテーブル I

「知の回路とテクノロジー」

(ディスカッサント：杉浦康平、キム・ソンド、吉岡洋)

(報告「東京大学新図書館計画」：阿部卓也)

(モデレーター：石田英敬)

杉浦氏の講演を受けて、本や文字が生み出す新たな発見や学びの出来事の可能性について討議します。東京大学新図書館計画における実証実験などの事例を紹介しつつ、書物文化を囲む技術の配列や空間設計がどのように読書行為を広げて行くかを考え、知の供給経路を作り出すための戦略的アクションの重要性を議論します。

18:30 懇親会

(会場：21KOMCEE MM ホール)

5月25日(日)

(会場：東京大学駒場キャンパス 18号館レクチャーホール)

13:00-16:00 プレナリー・セッション Hybrid Reading II

「ハイブリッド・リーディングと

デジタル・スタディーズ」

(講演：ベルナル・スティグレル、キム・ソンド)

(討論者：石田英敬)

(モデレーター：西兼志)

スティグレル氏とキム・ソンド氏の講演を中心に、文字・書物の文化の変容の問題を討議します。『技術と時間』の哲学者、スティグレル氏は、新たな知識学の動向「デジタル・スタディーズ」の提唱者の立場からハイブリッド・リーディングを論じ、著名なソシユール研究者でJ. デリダの『グラマトロジーについて』の韓国語翻訳者であるキム氏は東アジアの文字圏の観点から文字と書物を扱う記号論の可能性を論じます。

16:10-18:00 ラウンドテーブル II

「To read what was never written

～書かれぬものをも読む～」

(企画・構成：古賀稔章＋氏原茂将)

(モデレーター：水島久光)

「世界設計のための編集」など、書籍に関する実践を各地で展開してきた古賀稔章氏と氏原茂将氏を中心に、新進のアーキビストやキュレーター、さらには会場参加者を交え、二冊の本を起点にパフォーマンスに「読み」を重ね、二日間のセッションを貫くテーマ“Hybrid Reading”について、「体験的」に振り返ります。

学会員による研究発表(分科会)

5月25日(日) 10:00-11:30

(会場：駒場キャンパス18号館4Fコラボレーションルーム)

分科会 1 (コラボレーションルーム 1)

司会：佐藤守弘

発表1 「情報機関にとっての「intelligence」の意味」
(平松純一 NPO 法人インテリジェンス研究所)

発表2 「痕跡とラインの詩学 ―グリッサンとインゴルドをめぐって」

(工藤晋 東京都立国分寺高等学校)

発表3 「法廷から法廷へ：津田左右吉のシンボリズム」
(一瀬陽子 京都明徳高等学校)

分科会 2 (コラボレーションルーム 3)

司会：松本健太郎

発表1 「参照点構造に基づく視覚表象の認知プロセス」
(田中敦 新潟大学大学院)

発表2 「パースの記号類型論における再帰的規則性
―「新目録」§13の再考に向けて」

(朴濟晟 東北大学大学院)

発表3 「記号論的課題としての「メディアミックス」
―Marc Steinbergの*Anime's Media Mix*から出発して」

(谷島貫太 東京大学)

